

下田メディカルセンター広報誌

下田+MCLセンター

2013.9.1発行

vol. 3



尾ヶ崎

病棟フルオープン 下田市長 楠山 俊介

**回復期リハビリテーション
病棟への思い** 病院長 杉原 弘晃

病棟フルオープン

記録的な猛暑となりました今年の夏も、このレターが発行される頃には、熱波も一段落し、いくらか過ごしやすい時候を迎えていることを期待しています。

下田メディカルセンターも、5月には、早くも開院1周年が過ぎました。開院に至る道のりを考えますと、感慨ひとしおのがあります。開院からの取り組みとしては、診療の安定や、地域の高齢化率が35%を超える状況の中で、病気の予防や医療に関する知識を広め、安心な生活を送れるように、院内で健康講座を開くなど、積極的に住民とかがかわる機会と啓発活動に力を入れ、より身近な病院とすることに務めています。

また、救急医療の実績としても、平成24年度の賀茂医療圏の圏域内医療機関搬送件数の内、約33%が下田メディカルセンターに搬送され、救急医療を担う病院としても、定着してきています。

10月からは、2病棟体制での運営に、未使用だった病棟を加え、ようやく3病棟に広げての新しい取り組みをします。より一層対応できる医療の幅を広げ、地域で必要とされる医療を、安定的・継続的に提供することを心がけてまいります。

地域に根差した医療機関の皆様と共に、信頼に答えられる地域医療連携を構築していくよう、指定管理者であります医療法人社団静岡メディカルアライアンスと歩みを進めてまいります。



一部事務組合下田メディカルセンター

管理者 下田市長 楠山 俊介



回復期リハビリテーション病棟への思い

早いもので、私どもがこの地で病院を運営して以来、2年半が経過しようとしています。この間、先生方には大変お世話になりこの場を借りて感謝申し上げます。

さて、この2年半、診療に当たりながら常に感じていたことは、高齢化率35%で、かつ、独居や老老介護の患者さんが極めて多いという現実です。そのため、急性期の入院治療を終えても、なかなかすぐには元の生活には戻れないのが現状です。

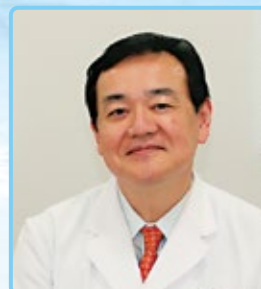
ご承知の通り、高齢の患者さんは、わずか一週間の入院でも、筋力が落ちてADLが戻らなかつたり、認知症状が悪化したりと、病気以外のところで在宅復帰への新たな障害が生じます。

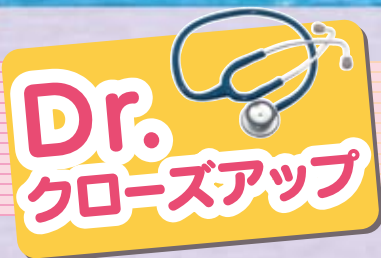
このような患者さんに何とか在宅復帰を果たして頂こうというのが、「回復期リハビリテーション病棟」の開設です。前述の通り賀茂地域では極めてニーズが高いサービスですが、まだまだベッド数が少ないのが現状です。

今回、私どもは、来る10月を目標にこの病棟をオープンし、お一人でも多くの患者さんに在宅復帰を果たして頂くよう頑張っております。

まだまだ発展途上の病院ですが、このような形で少しずつ地域の皆様のお力になれるよう前進してまいりますので、引き続き、ご指導、ご支援を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

病院長 杉原 弘晃





小児科
ほんじょう みちえ
本城 美智恵



小児科外来の紹介2012年10月から非常勤、2012年2月から1人小児科常勤医で勤務しています。東京女子医大をS52卒後は大学や埼玉県内病院の勤務医として主にアレルギー-《当院は認定施設です》、東洋医学《女子医東洋医学研究所非常勤医》子供の発達や心身症分野（子どもの心相談医、診察医）に興味を持ち小児医療に携わってきました。東日本大震災後に宮城での診療に参加して「今、自分にできること」をしたいと思います。学生時代の地域保健研究会と今後の医師人生を結びつけたい思いから転職をしました。小児救急もPALS受講をして学び直しました。賀茂地区は広い地域で風邪を引いたら「アパマン風邪薬」で対応する親に感動しましたが、疾患状態によっては遠方病院に行くことにもなり家族負担が生じます。感染流行時期は2次感染がないように隔離誘導や子供の状態がこじれない医療をと思うと、外来処置オーダーが多くなり、スタッフは大変です。要入院

の子は当院で診られる範囲は入院もしていただきます。小児科は看護師さん達スタッフの協力がないと運営できません。有能な、小児処置を厭わないスタッフに感謝です。小児科医には「トボカ-」という「子供に代わって代弁する」概念があります。1年半診療をして、この地域は「子育てにやさしい地域とは言えない」と感じています。1人1人の子供を大切に育てることが「子育てのしやすい地域」となり、子供人口増加につながると信じます。子育ては家族だけができるのではなく、支援する「教育・福祉行政・医療」3者の情報共有や協力がなく、実際的な支援はできないと考えています。親達が「仕方がない」と諦めず、多少のわがままも言えるパワーを持ち、次子も産む「チャレンジ」と、周りの大人たちに「チャレンジ」する勇気があれば、子供人口の増える地域になっていくと信じ、当科では医療面での小さな努力をしていきたいと思ひます。



看護部通信



3A病棟は内科急性期と小児科を受け入れる病棟です。職員はみな賀茂圏域の救急医療を担うという使命と誇りをもって昼夜を問わず急な入院に即対応できるよう看護体制を整えています。

明るく穏やかなスタッフが多く、チームワークの良さが仕事のスムーズな流れを作っています。また、医師をはじめ相談員・コメディカル部門とも積極的にカンファレンスを実施しており、コミュニケーションは円滑です。

今年度は小児科看護のレベルアップを図るため看護師が小児科外来に研修に出向き勉強会も実施しています。患者さん一人一人にあった医療・看護が提供できるよう努めて行きたいと思っています。



下田メディカルセンター 3A病棟看護科長 大村 啓子

TOPICS

今月は「地域医療を考える月間」です。9月7日(土) 13:30～16:30に静岡県との共催でオープンホスピタルを開催いたします。

地域住民の方にご来院いただき地域医療を考えるきっかけとなっただけであればと思います、職員一丸となって準備を進めてまいりました。

静岡県をはじめ、下田市・下田地区消防・東伊豆消防とも協力して様々な企画を用意しておりますのでご来院お待ちしております。



主な企画

- ★ 医療講演 副院長 齋藤 幸夫医師(事前予約制)
- ★ 救急車・ポンプ車・救助工作車・起震車の(展示・乗車)
- ★ AEDの使い方と心肺蘇生
- ★ 小児の救急と緊急時の対策
- ★ ノルデックウォーキング体験教室(事前予約制)
- ★ 医療・福祉・介護相談
- ★ 測定ブース

など約20の企画がございます

下田メディカル 部門紹介 Vol.3 リハビリテーション科

はじめまして、

下田メディカルセンターリハビリテーション科にて勤務している佐々木と申します。

昨年5月より当院は急性期病院として開院し、2年目を迎えた今秋より回復期リハビリテーション病棟を新設する運びとなりました

ご存じと思われますが下田地区には回復期病院が無く近在している回復期病院は熱川温泉病院さんであり、患者様とご家族様には長距離の移動を強いられていました。

回復期病棟ができることで当院に入院された患者様は転院することなく回復期病棟へ転床し1日の生活を社会復帰や自宅復帰を目指してリハビリテーションに集中することが出来るようになります。

入院患者様の多くは下田市と近隣に在住した方々です。必要に応じてご自宅まで伺い生活状況を把握することもできますのでこれまで以上に密接した関わりを持つことが出来るようになります。

今後地域の皆様に役立つ総合的なリハビリテーションを行えるよう努力していく所存です。

しかし、全てにおいて新たな取り組みとなります。何かと至らない点も多いと思います。

その際はご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

理学療法士 佐々木 豪



編集 後記

残暑厳しい日が続いておりますが、この夏は昨年に比べて非常に多くの観光客が伊豆に来たのではないのでしょうか。猛暑や水に関する事故も多く、当院への救急車の搬送件数が8月中旬まで概ね100台を超えている状況です。さて今月は静岡県との共催でオープンホスピタルの開催、来月からは回復期リハビリテーション病棟のオープンと病院にとって大きなイベントが控えております。今後も少しずつではありますが地域に貢献出来る様努めて参りたいと思います。(ミスター)



発行

下田メディカルセンター

〒415-0026 静岡県下田市6丁目4-10
TEL.0558-25-2525 FAX.0558-25-5050
<http://www.s-m-a.or.jp/shimoda/>

発行責任者 地域医療連携室長 上原 勉

アクセス
伊豆急下田駅から徒歩10分圏。路線バスのバス停も目の前にあり、電車やバスでスムーズに来院いただけます。また、敷地内に300台収容の駐車場を用意しております。



SHIZUOKA MEDICAL ALLIANCE
医療法人社団 静岡メディカルアライアンス 運営施設

みなとクリニック(外来)

〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL.0558-62-0005

なぎさ園(介護老人保健施設)

〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL.0558-62-6800

しらはまクリニック(外来)

〒415-0012 静岡県下田市白浜1528-2
TEL.0558-27-3700